



桜

丹波篠山市

ビジョン

市民みんなでつくる
オンリーワンのサクラの里

計画期間：令和7年度～令和16年度

はじめに

丹波篠山市に平成元年頃、多くの桜が植えられ、40年近くが過ぎました。先人の努力のおかげで、桜は春爛漫のふるさとを市民に見せてくれるようになりました。しかし、桜を取り巻く環境は、近年厳しいものになってきています。また、桜のまわりの人々の有り様も、社会の変化とともに大きく変わってきました。

今回、このような状況を憂いた、桜をこよなく愛する人々の願いで、丹波篠山市桜ビジョンが作成されました。当初は、令和5年度中の3回の会議で検討する計画でしたが、会議が白熱し、「まだ論議の時間が足りない」となり、令和6年度まで延長して議論を尽くさせていただきました。

「なぜ今桜なのか。住民にとって桜との暮らしは」等、桜と市民とのかかわり合いを根底に据え、話し合いました。そして基本理念を、先人達が繰り返し話されていた「さくらを育てるには、さくらと共に生きる人々を育てよ」の思いを込め、「市民みんなでつくるオンリーワンのサクラの里」と決めました。

本ビジョンの計画期間は10年間です。10年間で基本理念を市民の皆様をしっかり伝え、「オンリーワンのサクラの里」を市民みんなでつくる決意でもあります。本ビジョンをもとに、行政・関係部署・市民の皆様が話し合い、活動していただければ、100年後、1000年後も「さくらのまわりの人となった人々とともに、オンリーワンのサクラの里で桜たちは生き続ける」と信じています。

～ 千年サクラを夢見ながら ～

令和 7 年 3 月

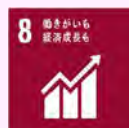
丹波篠山市桜ビジョン検討委員会
委員長 酒井克典

●「桜」と「サクラ」の表記について

桜にはソメイヨシノやヤマザクラ、カスミザクラなど、たくさんの種がありますが「桜」や「サクラ」という種はありません。本ビジョンでは、桜を丹波篠山市の木として指定する告示にならない、たくさんある桜の仲間の総称として「サクラ」とする表記を基本としています。しかし、「桜」の漢字表記には風流、華麗、優しさなどのよいイメージがあり、一般的にも桜のことと認識されやすいため、ビジョンの名称など、一部に「サクラ」と同じ意味で、「桜」の漢字表記を用いています。

(表紙の写真)有居の桜のトンネル

丹波篠山市は、「丹波篠山市桜ビジョン」により、持続可能な世界の実現に向けた SDGs の主に右記の目標達成に向けた活動を推進していきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

目次

第1章 丹波篠山のサクラ	5
1 市内のサクラの状況	
・歴史	
・種類と系統	
・分布状況	
・名所	
・ふるさと桜つつみ回廊	
・市木「サクラ」を未来へつなぐクラウドファンディング	
2 市内のサクラの課題	
・密植	
・大木化・老化・倒木	
・病気(てんぐ巢病など)、害虫、着生植物(コケ・ツタなど)	
・管理者不明	
・地域コミュニティ力の低下	
・手入れできる人材の不足	
・財源不足	
3 市内でのサクラを保全する活動	
(1) サクラの管理団体「ささやま桜協会」による活動	
(2) 地域住民による活動	
(3) 桜守による活動	
(4) 丹波篠山市商工会青年部による活動	
第2章 基本構想	16
1 策定の趣旨	
2 位置づけ	
3 取り扱う政策体系の範囲	
4 対象	
5 基本理念	
6 目指す将来像	
7 計画期間	
第3章 戦略(将来像実現に向けた取組方針)	22
第4章 モデル地区	29
1 篠山城跡周辺	
2 篠山川沿い	
第5章 推進体制と進捗管理	30
1 ビジョンの推進体制	
2 ビジョンの進捗管理	
資料	32
附録	35
① サクラの植え方	
② サクラの剪定	



【基本理念】

市民みんなで作るオンリーワンのサクラの里

【目指す将来像】

てきちてきおう

- ① “適地適桜”のサクラが未来に継承されるまち
- ② サクラを地域の活力とし、みんなが生き生きワクワクと過ごすまち
- ③ サクラを見守る人材があふれ、活躍するまち



第1章 丹波篠山のサクラ

1 市内のサクラの状況

・歴史

サクラは、日本には、江戸時代までに栽培品種を含め300種を超える種類が存在していたといわれ、現在では600種を超えていると言われています。日本を含めた北半球の温帯地域に広く見られ、わが国では特に平安時代から好まれていました。盛んに品種改良が行われ、花見や入学・卒業シーズンの花木として親しまれてきました。近年では、世界でも「sakura」と呼ばれるようになり、日本を象徴する花となっています。



ソメイヨシノ



ヤマザクラ



オオヤマザクラ



カスミザクラ



シダレザクラ



カンザン



オカメザクラ



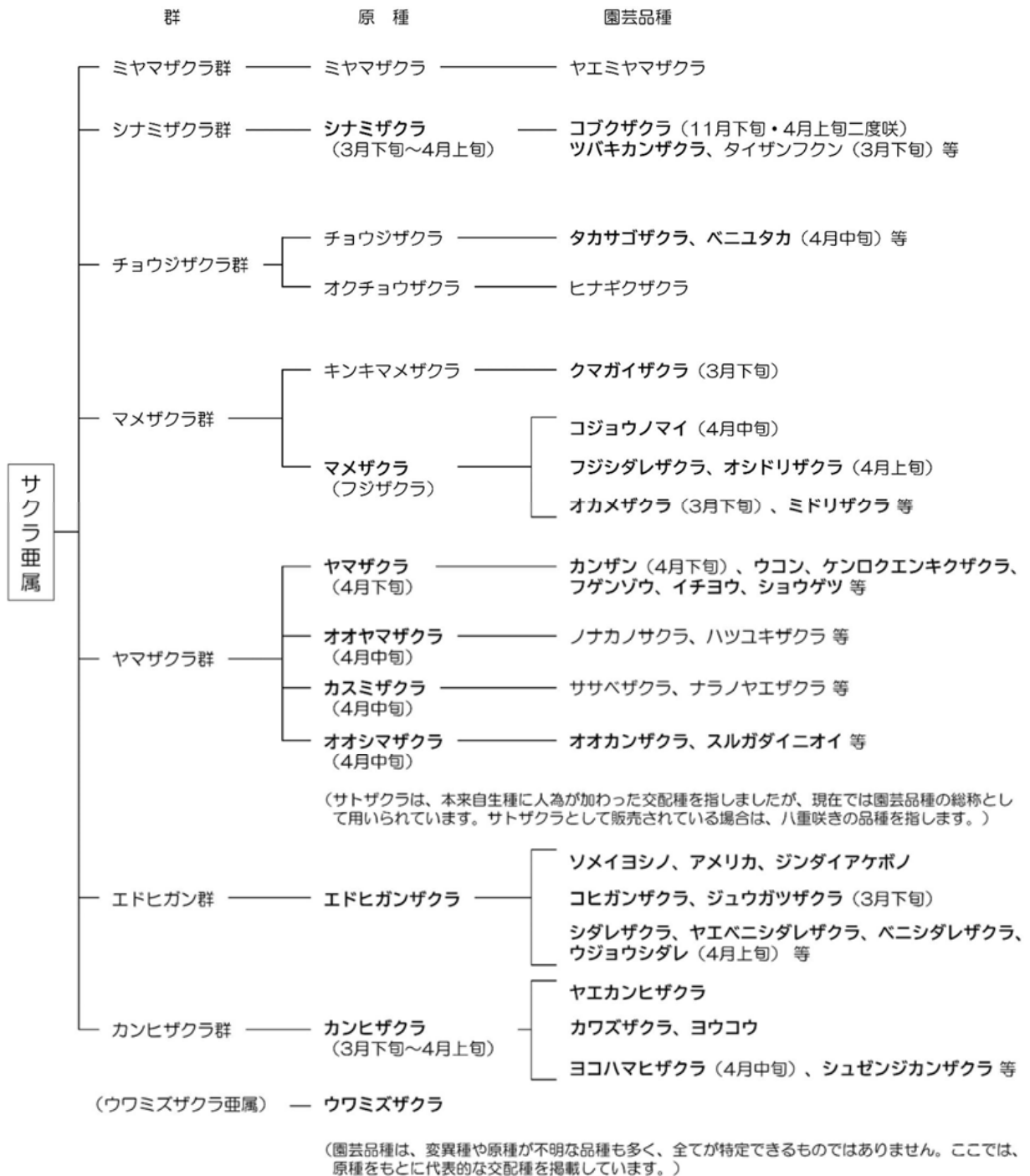
ジンダイアケボノ



フゲンゾウ

・種類と系統

サクラの種類は、大きく分けて7つに大別され、市内でもたくさんの種類のサクラを見ることができます。



※太字は丹波篠山にある桜。()は丹波篠山市内の開花期の目安。
開花期は、ソメイヨシノを(4月上旬～中旬)とした場合の標準開花期(それぞれ早咲種と遅咲種あり)。

・分布状況

令和5年度に市が調査した市内の地区別のサクラの分布状況は次の通りです。個人や事業者の所有地のものなど、把握しきれていないものを含めると、市内には1万本を超えるサクラがあります。

調査の条件

期間 … 令和5年9月から10月

対象 … 全ての自治会

方法 … 市職員が自治会集会の場又は自治会長個人から聞き取り

対象 … 公民館や公園、河川堤防など、公共性の高い場所のサクラ

内容 … 対象となるサクラの有無、場所、本数、管理者、管理方法、病気の有無など

場 所	本 数	 …500本
自治会(ささやま桜協会含む)	8,400 本	
(内数) 篠山地区	1,000 本	
城東地区	600 本	
多紀地区	800 本	
西紀地区	1,700 本	
丹南地区	4,100 本	
今田地区	200 本	
公園、道路沿い等	1,600 本以上	
個人、事業所、神社・仏閣	不明	
合 計	10,000 本以上	

・名所

サクラは丹波篠山市の【市木】であり、地域で大切に守られています。市内にはサクラの名所といえる多くのスポットがあります。

丹波篠山 お花見マップ

発行：丹波篠山さくらまつり実行委員会
お問合せ：丹波篠山市観光協会 電話(079)506-1535

北西部地区

- 32 ユニピアささやま
- 33 宮田川沿桜並木
- 34 鼓峠の桜
- 35 高蔵寺
- 36 大山川沿いおかめ桜
- 37 友瀧川のつり橋

友瀧川のつり

34 鼓峠

西古佐・西吹

西岡屋・有居

風深・南新町

南西部地区

- 25 宇土観音
- 26 田松川
- 27 真南条川・武庫川
- 28 古森・油井・草野
- 29 丹南中学校
- 30 文保寺
- 31 今田立杭

*ここで紹介は、民間の場所も場やトイレバス等のていませ 数人のク一を守

友瀧川のつり橋 37

鼓峠の桜 34

般若寺の一本桜

東部地区

- 1 大芋シダレザクラ
- 2 下笹見ヤマザクラ並木
- 3 国道173号線沿桜並木
- 4 ささやまの森公園
- 5 里山工房くもべ
- 6 辻川
- 7 古坂峠
- 8 曾地川
- 9 市役所城東支所
- 10 般若寺の一本桜
- 11 瀬利の桜堤

11 瀬利の桜堤

5 里山工房くもべ

13 八上下・八上内

9 市役所城東支所

12 井ノ上・上宿

10 般若寺の一本桜

6 辻川

4 ささやまの森公園

7 古坂峠

篠山川畔

- 12 井ノ上・上宿
- 13 八上下・八上内
- 14 八上
- 15 風深・南新町
- 16 東吹
- 17 西岡屋・有居
- 18 西古佐・西吹
- 19 川代ダム・大山下

城下町地区

- 20 王地山公園
- 21 春日神社
- 22 篠山城跡
- 23 小枕川
- 24 篠山産業高校前

篠山城跡

ささやまの森公園

春日神社(黒岡)

王地山公園

*ここで紹介している桜の名所は、民間施設や集落に位置する場所も多くあります。駐車場やトイレ等のない所も多く、バス等の団体の皆様には適していません。家族や知人等の数人のグループで、観光マナーを守ってお楽しみください。

出典：丹波篠山お花見マップ(丹波篠山さくらまつり実行委員会・令和7年)

・ふるさと桜つつみ回廊

川を身近な自然として愛し、安全で美しい県土を創出するとともに、地域交流を深めてもらいたいという願いを込めて、兵庫県が平成3年度から平成12年度にかけて、瀬戸内海から日本海を結ぶ延長約170kmの河川沿い(武庫川～篠山川～加古川上流～円山川)を約5万本のサクラでつなぐ「ふるさと桜つつみ回廊」を整備しました。

市内でもこの事業により、篠山川、武庫川、大山川などに多くのサクラ(主にソメイヨシノ)が地域住民により植樹されています。

この兵庫県の「ふるさと桜つつみ回廊」事業は、旧丹南町で広く実施されていた町木「サクラ」の植樹活動が発端となって実施されました。



篠山川の桜つつみ回廊

・市木「サクラ」を未来へつなぐクラウドファンディング

丹波篠山市では、「丹波篠山の桜を守り、育むプロジェクト」として、ガバメントクラウドファンディングにより、市木サクラの保全や人材育成等のための寄附を令和5年度から募っています。過去2年間、目標とする200万円を大きく超える寄附が全国各地から寄せられ、「サクラを未来へつなぐ」という市民の思いに、たくさんの方に共感していただいています。

寄附金は、篠山城跡など市内のサクラのシンボリックな場所の整備に利用され、より魅力的になったサクラが多くの人々の心に響き、さらなる賛同者を呼ぶ、サクラを未来につなぐための持続的な財源となることが期待されています。



クラウドファンディング

2 市内のサクラの課題

春が来ればサクラは自然に咲くもの、と思いがちですが、サクラが元気に咲き続けるには、一定の対処が必要な課題があります。

丹波篠山市におけるサクラに関する課題は、次のとおり挙げることができます。

・密植

住民の手によって河川堤防等に植えられたサクラの種類は、多くがソメイヨシノという現状ですが、ソメイヨシノは年数とともに、かなりの大木に成長し、枝も横に広がります。ソメイヨシノの自然な成長には、一般的に10m程度の間隔で植樹することがよいとされていますが、5m間隔程度で植えられている所もあり、木の生育につれてお互いが日照等に対して障害となり、生育が妨げられている木が多くみられます。

若木を植える場合でも、将来大木になった姿を想定して植えることが必要です。また、すでに狭い間隔で植えられている場所については、木同士の間隔を広げるために、伐採(間引き)することも検討が必要です。



狭い間隔で植えられたサクラ

・大木化・老化・倒木

密植とも関わりますが、成長が進んだサクラの木は、品種によってはかなりの大木になります。ソメイヨシノなど一部の品種のサクラは、人の手による手入れが必要ですが、大きく、高く成長した木の上部には梯子をかけても届かず、作業をするには高所作業車が必要になるなど、慣れていない人には困難な作業となってしまいます。そうならないためにも、これからサクラを植える際には、高木にならない品種を選ぶことも大切なポイントです。

また、植えてから数十年が経った木は老化しています。人の手によって適切な手入れがされている木であれば、年数に関わらず元気に花を咲かせてくれますが、手入れがなされていない木については、だんだん弱ってきています。弱った木が倒れるおそれもあるので、個体の程度によっては更新(植え替え)する必要があります。



ヤマザクラの大木

・病気(てんぐ巣病など)、害虫、着生植物(コケ・ツタなど)

サクラの共通的な欠点として、大気汚染などの環境悪化に弱いことや、病害虫の被害を受けやすいことなどがあります。ソメイヨシノは特にてんぐ巣病やきのこの寄生など、菌の繁殖によって病気にかかりやすい傾向があります。

陽当たりが悪く、湿気が多いところなどでは、コケ(地衣類など)が表皮についている木が見られます。少しでもあれば問題ありませんが、びっしりとはびこった木はやがて呼吸ができなくなり、樹勢に影響が現れます。また、木の周りの雑草などが除去されていない場所では、ツタやクズが絡まり、見た目も悪く、成長とともに締め付けられて、弱る原因にもなります。

また、近年、サクラなどのバラ科樹木に寄生し、幼虫が樹の内部を食べて枯らしてしまう特定外来生物クビアカツヤカミキリが近隣自治体にまで生息域を拡大しており、早期発見と早期防除の体制整備が必要です。



てんぐ巣病に罹患したサクラ



キヅタに覆われたサクラ

・管理者不明

私有地に植えられている木については、はっきりとした所有者、管理者がいますが、道路敷や河川堤防など公的な場所では、植えられてから年数が経っているサクラの中には管理者が不明確になってきているものがあります。手入れが必要な木については、管理者が注意して見守ることが必要です。

・地域コミュニティ力の低下

人口減少や高齢化、核家族化や個人の価値観の多様化などにより、全国的に地域を支える人材不足や住民同士のつながりの希薄化が社会問題となっています。市内では、従来から各地域で比較的濃密な交流が行われてきましたが、同様の問題が徐々に顕在化してきています。

市内には、自治会などの地域で植樹され、管理されてきたサクラがたくさんあります。地域コミュニティ力の低下により、従来通りの管理が出来なくなることが危惧されています。



地域でのサクラの手入れ

・手入れできる人材の不足

「桜切るバカ、梅切らぬバカ」という諺(ことわざ)がありますが、これは絶対にサクラの枝は切ってはいけない、ということではありません。適切な切り方をしないと枯れたり、弱ったりするおそれがある、という意味で言われています。サクラの枝を切る際には、後で傷が治りやすいように正しい切り方をする必要があります。一般的には、そういった知識を持つ人は少なく、正しい手入れができる人材が不足している現状で、人材育成が急務です。



処置された切り口(剪定直後)



処置された切り口(時間経過後)

・財源不足

丹波篠山市には、約1万本のサクラがあります。品種は様々で、病害虫に強い種類もあれば、病気にかかりやすい種類もあります。市内で最も多く植えられているサクラはソメイヨシノですが、ソメイヨシノは病気に弱い品種で、前述のてんぐ巣病が有名です。木の低い位置に罹患した枝があれば、正しい知識さえあれば、比較的容易に切って駆除することができますが、高い位置にあれば、高所作業車での作業が強いられるなど、経費が必要になってきます。サクラを1本1本適切に手入れしていくためには、多くの労力と経費が必要となり、その財源が課題となってきます。



高所作業車による作業

3 市内でのサクラを保全する活動

市木であるサクラは、多くの人々の保全活動により受け継がれてきました。その活動の一例を紹介します。

(1) サクラの管理団体「ささやま桜協会」による活動

「ささやま桜協会(以下、「桜協会」。)」は旧丹南町の町木であったサクラを守り育てるため、昭和63年に自治会や事業所、団体、個人を構成員として発足した「丹南町桜協会」を母体とし、現在の丹波篠山市の市木であるサクラの保全活動を目的とした市内唯一の団体です。主な活動は次のようなものです。

- ・桜守による桜の育成・剪定等に関するアドバイス
- ・地域で桜の維持管理ができる人材を育てる桜守養成講座
- ・地域の桜を知る桜めぐり
- ・市内全域を対象とした桜の整備

(2) 地域住民による活動

自治会やまちづくり協議会など、地域住民の活動により、公民館や神社・仏閣、兵庫県の「ふるさと桜つつみ回廊」事業で植樹された河川堤防など、市民の交流や憩いの場のサクラが保全されています。



桜協会主催の「桜めぐり」

(3) 桜守による活動

サクラは春が来れば自然に咲くもの、と思いがちですが、私たちが毎年サクラを楽しむことができている背景には、常にサクラに愛情を注ぎ、花の季節以外にもサクラの健康状態を見守り、手当をしている「桜守(さくらもり)」と呼ばれる人たちの活動があります。

桜協会により、毎年、剪定など、サクラの手入れや維持管理ができる桜守を養成する「桜守養成講座」が実施され、技術を習得した桜守が市内各地で活動し、サクラの保全につながっています。



桜協会主催の「桜守養成講座」

(4) 丹波篠山市商工会青年部による活動

市内で事業を営む経営者・後継者や従業員で満45歳以下の青年(男女)で構成される丹波篠山市商工会青年部により、篠山城跡周辺や国・県道沿いなど、主要な場所のサクラのてんぐ巣病対策や支障枝の除去、植樹などの活動が実施されています。

【サクラの剪定整備の効果】 ※令和6年3月篠山城跡で実施

整備前



整備後の開花の様子



第2章 基本構想

1 策定の趣旨

サクラは、日本を代表する花木で、市内には篠山城跡、川代公園、鼓峠など、全国に誇る桜の名所があります。分類学上、サクラという種類はなく、あくまで300種以上ある桜の仲間の総称で、市内には日本の野生サクラの代表であるヤマザクラをはじめ、数多くのサクラが自生又は植栽され、市民に愛されています。(丹波篠山市の木指定・平成16年告示第2号)

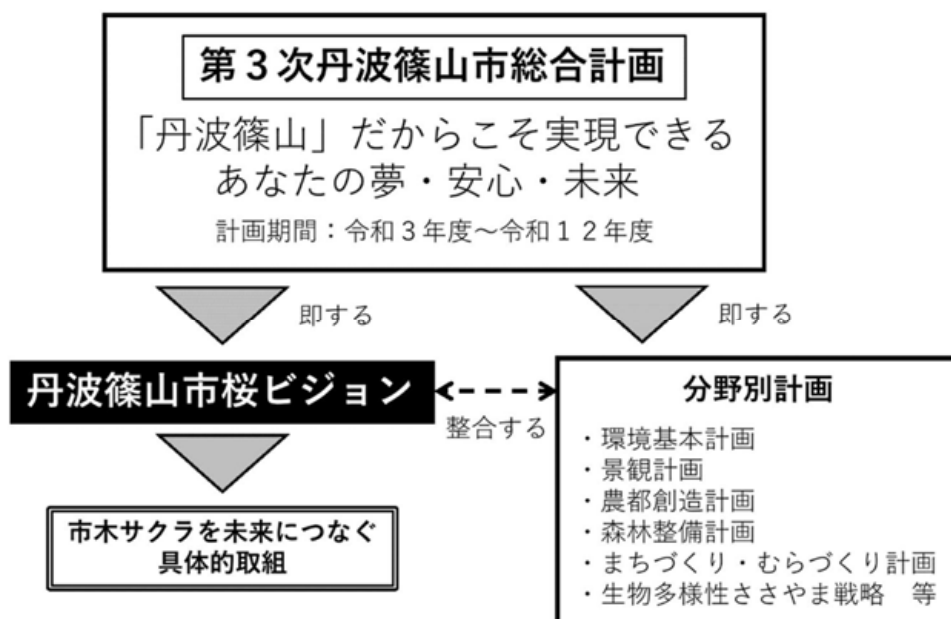
また、市民が大切にしてきたサクラを楽しむため、春にはたくさんの観光客が丹波篠山市に訪れます。サクラは人々を引き寄せる魅力を持っています。

しかし、市内に約1万本あるサクラ(主にソメイヨシノ)は、植え付けから時間が経過し、高木化して手入れが行き届かないもの、老木化したもの、てんぐ巣病に罹患したものなど、その状態は良好なものばかりではありません。

今後もサクラを市民が愛し、楽しみ、見守り続けることで、美しく咲くサクラを未来につなげていくためには、サクラの計画的な維持管理や、必要に応じた更新(植え替え)が必要です。このため、市木サクラを未来につないでいくための計画として、今回新たに「丹波篠山市桜ビジョン」を策定します。

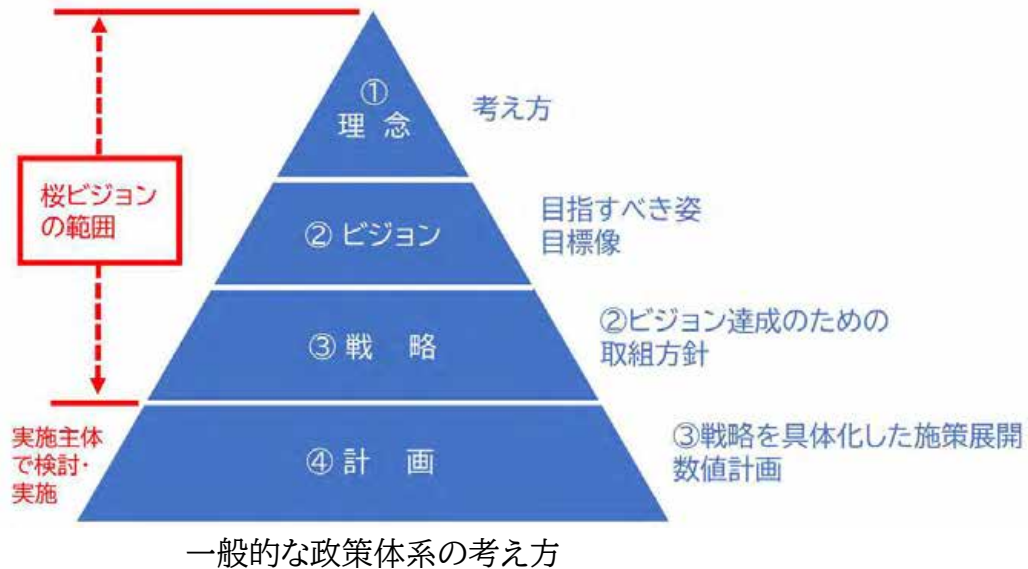
2 位置づけ

本ビジョンは、「第3次丹波篠山市総合計画」を上位計画とし、市木であるサクラを、今後も市民が愛し、楽しみ、見守り続けられるよう、未来につないでいくための「ビジョン」として位置づけます。



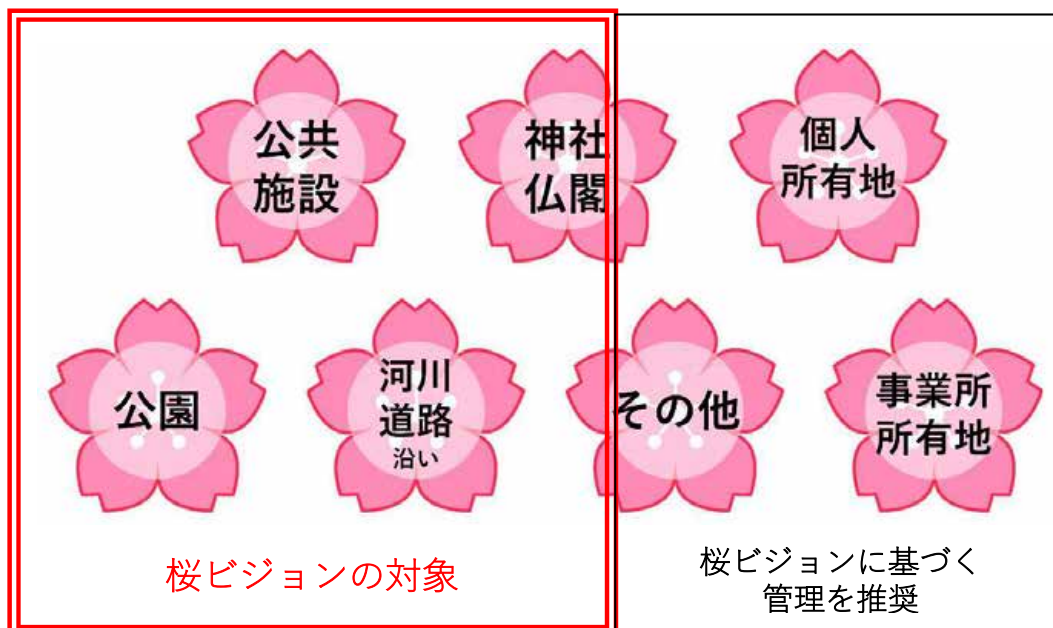
3 取り扱う政策体系の範囲

本ビジョンで取り扱う範囲は、一般的な政策体系ピラミッド(下図)でいう「①理念」「②ビジョン」「③戦略」までとします。具体的な施策や数値計画等の「④計画」は実施主体で個別に定め、実施していくこととします。



4 対象

本ビジョンは、市内全域の公共施設や公園、河川・道路沿いなど、公的な場所にあるすべてのサクラを対象とします。個人や事業所の所有地など、公的ではない場所にあるサクラについては、本ビジョンの対象とはしませんが、市木「サクラ」を未来につないでいくため、本ビジョンの理念や将来像に基づいた管理を推奨していきます。



5 基本理念

「市民みんなで作るオンリーワンのサクラの里」

「サクラ」は丹波篠山市の市木です。

市内には約1万本のサクラがあり、春になると地域住民や観光客のみなさんの目を楽しませています。市内のサクラの多くはソメイヨシノという品種ですが、ソメイヨシノは「てんぐ巣病」という伝染病にかかりやすく、放っておくと病気が広がり枯れてしまう可能性があります。このようにサクラの木は定期的な手入れが必要であり、以前から多くのみなさんの手で剪定や治療、防除作業などを行っていただいています。

また、ソメイヨシノ以外にも、市内に従来から自生する山桜、早咲きのオカメ桜や遅咲きのカスミ桜など、個性豊かで美しい花が咲く素晴らしいサクラがたくさんあります。これらのサクラにも目を向けてみると、丹波篠山の自然の多様性を感じることができます。

サクラは日本を代表する木であり、日本中で美しいサクラを愛でることができます。また、サクラで地域おこしをしているところは全国にたくさんありますが、丹波篠山市では子どもからお年寄りまで市民みんなが、多様なサクラを愛し、楽しみ、見守り、関わり続け、各々が丹波篠山をオンリーワンのサクラの里だと思えるように取り組んでいきます。



6 目指す将来像

① “適地適桜”のサクラが未来に継承されるまち

⇒多様な種類のサクラが地域で継承されているまちを目指します。

サクラは60年以上、しっかりと管理すれば何百年と、人よりも長く生きる続けることができます。

市内にはたくさんのサクラがありますが、誕生や入学・卒業の記念など、その一本一本に植栽した人の思いが込められています。

しかし、サクラが生き続ける時間の中で、人の世代が変わると植樹時の思いが継承されず、サクラに目が向かなくなり、管理が行き届かなくなります。

また、サクラは多種多様であり、土壌や気候など、種ごとに成長に適した環境があります。サクラを新たに植樹する場合や更新する場合は、適した場所に適した種類のサクラを植樹する「適地適桜(てきちてきおう)」を意識することも重要です。

サクラを未来に継承していくためには、個人単位での管理には限界があります。地域のシンボルとして、地域のみみんながサクラを自分事として考えられるオンリーワンのサクラの里を目指します。



② サクラを地域の活力とし、みんなが生き生きワクワクと過ごすまち

⇒サクラが地域活性化に活かされているまちを目指します。

お花見は、日本人が昔から楽しんできた春の行事です。一緒に地域で働き、サクラのもとで宴をすることにより、深い関係性を築いてきました。

また、サクラのもとには地域住民だけではなく、都市部や最近では海外からもお花見を目的に人々が集まります。その魅力(映え)がSNSで発信されることにより、多くの人の共感を呼び、さらに人々を集める、サクラにはそのような人々をつなぐ求心力があります。

しかし、サクラの求心力が主に発揮されているのはサクラの花が咲く春の数週間です。年齢や性別、居住地関係なく、一年を通じてサクラをきっかけとして人々が交流し、みんなが生き生きワクワクと過ごすことができるオンリーワンのサクラの里を目指します。



③ サクラを見守る人材があふれ、活躍するまち

⇒サクラを気にかけて、適切に管理する人がたくさんいるまちを目指します。

サクラは桜守の活動などにより毎年美しい花を咲かせていますが、市内にたくさんあるサクラを桜守だけで管理するには限界があります。サクラを未来につなげていくためにはより多くの方がサクラのことを気にかけて、関わっていく必要があります。

一方で、「桜切るバカ、梅切らぬバカ」という諺(ことわざ)があるように、サクラの剪定にはそれなりの知識と技術が必要です。

多くの方がサクラのことを自分事として気にかけて、適切なサクラの管理手法を習得し、各々でサクラを手入れするオンリーワンのサクラの里を目指します。



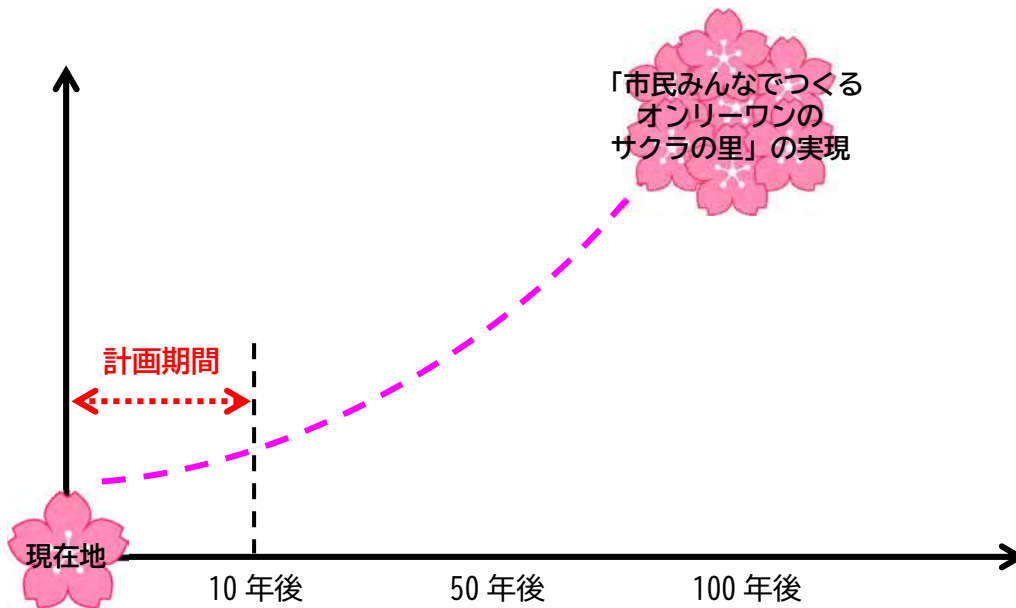
○イメージ



7 計画期間

サクラの成長に要する期間は数十年以上と長く、このビジョンで掲げる理念や将来像実現のためにも同じく長い期間を要します。そのため、このビジョンでは中長期的な視点でサクラの里づくりを進めていくため、50年、100年先を見据えたものとして「理念」、「目指す将来像」を掲げつつ、その目標実現のための短期的な取組方針を次項で「戦略」として掲げます。

戦略(取組)は一定の期間で区切り、効果検証したうえで都度改定して進めていく必要があるため、令和7年度から令和16年度までの10年間を計画期間として実施していきます。



第3章 戦略(将来像実現に向けた取組方針) ※令和7～16年度

本ビジョンの「理念」や「目指す将来像」を実現するための取組方針を「戦略」として掲げ、その取組方針に基づく取り組み例を示します。取り組み例は、実施主体などの意見を踏まえて計画期間中においても都度、更新、追加し、より多くの主体が身近にできることから取り組んでみようと思えるよう、積極的に広報していきます。

また、各取り組みには、行政※1や桜協会、団体※2、市民、事業者など、取り組みへの参画を想定する主体を掲げます。取り組みを効果的に推進していくためには、多様な価値観をもつ多くの主体(この章では「みんな」と表現しています。)が自分事として積極的に取り組み、お互いに協働していくことが重要です。本ビジョンにより、できるだけ多くのみんながサクラに関わり、最大の効果が得られるよう働きかけていきます。

※1 行政 … 市や国、県

※2 団体 … 自治会、まちづくり協議会、観光協会、商工会など

目指す将来像① 「“適地適桜”のサクラが未来に継承されるまち」

【取組方針①-1】“適地適桜”

【取組方針①-2】整備促進

【取組方針①-1】“適地適桜”

サクラを未来に継承するため、サクラを新たに植樹する場合や更新する場合は、将来の成長した姿を見据えた計画を持ち、その場所の土壌や気候にあった種類のサクラを、適切な方法で植樹されるよう推進します。

取り組み(例)	想定する参画主体				
地域にあったサクラの計画的な植樹	行政	桜協会	団体	市民	事業者
適切な植え方(土壌・間隔など)の実践	行政	桜協会	団体	市民	事業者
必要に応じた更新や伐採(新しいサクラの植樹、サクラの枯木の処分など)	行政	桜協会	団体	市民	事業者
地域の名桜の繁殖(苗木づくり)、育成	行政	桜協会	団体	市民	事業者

【取組方針①-2】整備促進

サクラは剪定などの手入れが必要であるという広い認識のもと、みんなが身近にあるサクラの状態に関心を持ち、必要な手入れが自発的に実施されるよう促進していきます。また、病害や老木化による危険木は必要に応じて伐採や更新します。

取り組み(例)	想定する参画主体				
必要な手入れの周知	行政	桜協会	団体	市民	事業者
状態に応じた伐採の必要性の周知	行政	桜協会	団体	市民	事業者
公共の場所のサクラの所有者、管理者の明確化	行政	桜協会	団体	市民	事業者
木札の設置(種類、所有者の明示)	行政	桜協会	団体	市民	事業者

取り組み(例)	想定する参画主体				
オーナー制度(マイ桜制度)	行政	桜協会	団体	市民	事業者
サクラパトロール、通報制度	行政	桜協会	団体	市民	事業者

サクラ=ソメイヨシノ? “適地適桜(てきちてきおう)”を考えよう!

コラム①

ソメイヨシノは、日本で最も人気のあるサクラで、植栽されているサクラの約80%を占め、桜前線の基準にもなるサクラの象徴的な品種です。市内でも兵庫県の「ふるさと桜づつみ回廊」事業などにより、河川堤防などにたくさん植栽されています。開花時期には花びらが密集して咲き誇り、葉が展開しないので、淡いピンク色の花だけが目立つ華やかな姿が魅力です。花の期間は1~2週間と短いですが、散る際の美しさも多くの人を惹きつけます。



ソメイヨシノ並木

ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンザクラを交配して生まれた品種で、クローン桜として挿し木や接ぎ木で全国に広まりました。そのため、全てのソメイヨシノは遺伝的に同じ特性を持っています。この均一性により、病気に対する耐性も統一されており、1本が病気にかかるると他の個体にも影響が広がるリスクがあります。



てんぐ巣病に罹患したソメイヨシノ

ソメイヨシノの代表的な病気が「てんぐ巣病」です。てんぐ巣病は細菌による病気で、枝が密集して「天狗の巣」状になり、樹勢が低下します。観賞価値を損ね、放置すると他のサクラに感染する恐れがあります。ソメイヨシノは、数あるサクラの中でもてんぐ巣病に罹りやすい性質があり、河川沿いの湿気が多い場所や密植などが影響し、市内でも影響が広がっています。

本ビジョンでは、サクラを新たに植樹する場合や更新する場合に、適した場所に適した種類のサクラを植樹することを「適地適桜(てきちてきおう)」として推奨しています。ソメイヨシノ以外のサクラを植樹することで、早咲きや遅咲きなど、開花の時期がずれ、花見の期間を延長できるという観光面の利点もあります。

ソメイヨシノに代わるサクラとして注目される品種は、丹波篠山市の気候や地質への適性、耐病性などが考慮されており、景観や観賞価値が高いものです。以下にいくつかの代表的な品種を紹介します。

【野生種1】ヤマザクラ(山桜)

特徴:花は小ぶりで白から淡紅色。花と葉が同時に開く。

メリット:市内の山地に自生し、地域適性がある。耐病性が高く、樹勢も強い。



【野生種2】カスミザクラ(霞桜)

特徴:花は白や淡いピンク色、ヤマザクラよりも開花時期が遅い。花と葉が同時に開く。

メリット:市内の山地に自生し、地域適性がある。耐病性が高く、樹勢も強い。



【野生種3】オオシマザクラ(大島桜)

特徴: 白い大きな花と芳香が魅力的。若葉は桜もちに利用される。

メリット: 耐病性が高く、剪定にも強い。



【里桜1】ジンダイアケボノ(神代曙)

特徴: ソメイヨシノと似た淡いピンクの花を咲かせ、花付きもよい。

メリット: 耐病性が高く、てんぐ巢病が出ない。樹勢も強い。



【里桜2】ヤエザクラ ※品種の例…カンザン、フゲンゾウなど

特徴: 花弁が多く華やかな仲間で、八重咲き大輪が特徴。

メリット: 花の耐久性が高く、観賞期間が長い。



【里桜3】シダレザクラ ※品種の例…ヤエベニシダレ、ベニシダレなど

特徴: 枝が垂れ下がり、風情のある樹形が特徴的。

メリット: 品種により開花時期が異なり、景観に変化を持たせやすい。



「市民みんなでサクラパトロール

～ クビアカツヤカミキリを早期に発見しよう! ～」

コラム②

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなど主にバラ科の樹木に発生し、枯死させる外来の昆虫です。令和6年7月には、隣接する三田市で成虫やフラス(幼虫のフンと木くずが混ざったもの)が確認されており、近い将来、丹波篠山市にまで生息域が広がり、市木「サクラ」に深刻な影響を与えることが危惧されています。

クビアカツヤカミキリの被害を抑えるには、早期の発見と適切な対策が重要になってきます。そのためには地域全体での気配りと、異変に気づいた場合の早期の連絡、防除が必要です。

クビアカツヤカミキリの生態や防除方法を学ぶ講習会だけではなく、子どもや学生など、普段から生きものに関心の高い人を巻き込んだ発見イベントなど、様々な視点で工夫を凝らした対策が求められます。



クビアカツヤカミキリの成虫
(兵庫県提供)



クビアカツヤカミキリのフラス
(兵庫県提供)



子どもの体験イベント

目指す将来像②「サクラを地域の活力とし、みんなが生き生きワクワクと過ごすまち」

【取組方針②-1】名所、名木づくり

【取組方針②-2】観光利用

【取組方針②-3】商品化

【取組方針②-4】地域活性化

【取組方針②-1】名所、名木づくり

みんなが将来にわたってサクラを市木として愛着を持ち、誇り続けられるよう、サクラの名所や名木(名桜)づくりに取り組みます。

取り組み(例)	想定する参画主体				
名所の保全	行政	桜協会	団体	市民	事業者
地域の名桜の掘り起こし	行政	桜協会	団体	市民	事業者
映えスポットづくり、SNS 発信	行政	桜協会	団体	市民	事業者
名所、名木マップづくり	行政	桜協会	団体	市民	事業者
名所、名木にまつわるエピソードの発信	行政	桜協会	団体	市民	事業者

【取組方針②-2】観光利用

サクラを地域の魅力として広く発信し、年間を通じた観光集客につながるよう推進します。

取り組み(例)	想定する参画主体				
桜めぐりツアーの実施(開花期に限定しない)	行政	桜協会	団体	市民	事業者
サクラの散歩道、モデルコースの設定	行政	桜協会	団体	市民	事業者
桜ガイド(名所案内人)の育成	行政	桜協会	団体	市民	事業者
和船、屋形船からのお花見	行政	桜協会	団体	市民	事業者
秋のさくらまつり	行政	桜協会	団体	市民	事業者

【取組方針②-3】商品化

サクラが年間を通じて地域に収益をもたらすものとなるよう、商品利用を推進します。

取り組み(例)	想定する参画主体				
年中を通して楽しめる商品、食品の開発(桜もち、桜ビール等)	行政	桜協会	団体	市民	事業者
サクラの伐採木を使った机やペン立ての作成	行政	桜協会	団体	市民	事業者

【取組方針②-4】地域活性化

サクラが持つ人々を集める求心力を最大に活かし、地域住民、都市住民、外国人など、みんなが交流できる機会をつくり、地域の関係人口の増加、活性化に繋がります。

取り組み(例)	想定する参画主体				
お花見会の開催	行政	桜協会	団体	市民	事業者

目指す将来像③「サクラを見守る人材があふれ、活躍するまち」

【取組方針③-1】見守る人材の育成

【取組方針③-2】見守る団体の支援

【取組方針③-3】交流促進

【取組方針③-4】学ぶ機会の提供

【取組方針③-5】資金集め

【取組方針③-1】見守る人材の育成

サクラの専門的な知識を有し、サクラを見守り、自発的な維持管理に取り組む人材の育成に取り組みます。

取り組み(例)	想定する参画主体				
サクラの手入れ方法の周知	行政	桜協会	団体	市民	事業者
桜守などサクラの専門家の養成	行政	桜協会	団体	市民	事業者

【取組方針③-2】見守る団体の支援

桜協会が本ビジョン推進の中核的な組織となるよう、活動支援や加入促進に取り組みます。また、桜協会や自治会、個人などによるサクラの見守りや維持管理活動が持続的に実施されるよう、技術面や金銭面の支援、新たな参画者を呼び込む取り組みを推進します。

取り組み(例)	想定する参画主体				
桜協会の活動支援、加入促進	行政	桜協会	団体	市民	事業者
桜守による技術的支援	行政	桜協会	団体	市民	事業者
補助金による金銭的支援	行政	桜協会	団体	市民	事業者
サクラを見守る活動の紹介	行政	桜協会	団体	市民	事業者

【取組方針③-3】交流促進

既にサクラの見守りや維持管理に取り組むみんなや、これから取り組みたいと思うみんなが経験や意見を持ち寄り、それぞれの活動の改善や横の連携の創出につながるよう、交流を促進します。

取り組み(例)	想定する参画主体				
サクラの管理者間の交流、意見交換会	行政	桜協会	団体	市民	事業者

【取組方針③-4】学ぶ機会の提供

みんながサクラに無関心では、サクラの危機的な状況を察知し、必要な維持管理に取り組むことはできません。年齢を問わずみんなが自分事としてサクラのことを考え、取り組んでいけるよう、サクラについて学ぶことができる機会を設けます。

取り組み(例)	想定する参画主体				
サクラについて学ぶセミナー、講演会	行政	桜協会	団体	市民	事業者
小中学校への派遣授業	行政	桜協会	団体	市民	事業者

【取組方針③-5】資金集め

大きく成長したサクラの整備に必要な高所作業車など、市内のいろいろな場所にあるサクラを1本1本適切に手入れしていくためには、多くの労力と費用が必要になります。行政からの補助金もありますが、サクラの維持管理を継続していくためには、観光などでサクラに関わるみんなからの寄附や協賛など、持続可能な財源が必要です。

取り組み(例)	想定する参画主体				
ふるさと納税制度・クラウドファンディング	行政	桜協会	団体	市民	事業者
企業協賛	行政	桜協会	団体	市民	事業者
サクラの名所の命名権の販売	行政	桜協会	団体	市民	事業者

「一年を通じてサクラの魅力を発信しよう！」

コラム③

多くの人にとって、サクラに目が向くのは花が咲く春の数週間です。それ以外の期間は残念ながら、無関心か、あるいは通行の妨げになる、毛虫が発生する、落ち葉が迷惑など、否定的な見方をされることが多くあります。

本ビジョンの目指す将来像②では、「サクラを地域の活力とし、みんなが生き生きワクワクと過ごすまち」を掲げています。サクラが地域の活力となるためには、一年を通じてサクラの魅力が感じられるよう、魅力を再発見し、積極的に発信していく必要があります。

ビジョン検討委員会では、一年を通じたサクラの魅力や利活用方法について、ワークショップなどで意見を出し合いました。第3章「戦略(将来像実現に向けた取組方針)」と重複するものもありますが、そのアイデアの一部をご紹介します。



- ・新緑や紅葉の時期のさくらまつり、写真コンテスト、名木ツアー、散歩道の設定
- ・桜もちやビール、スイーツ、ジャムなど、サクラを用いた商品、食品の開発
- ・伐採木を使った机やペン立て
- ・篠山川(川代ダム上流)での和船、屋形船からのお花見、観賞
- ・サクラのマスコットキャラクター



桜もち(イメージ)

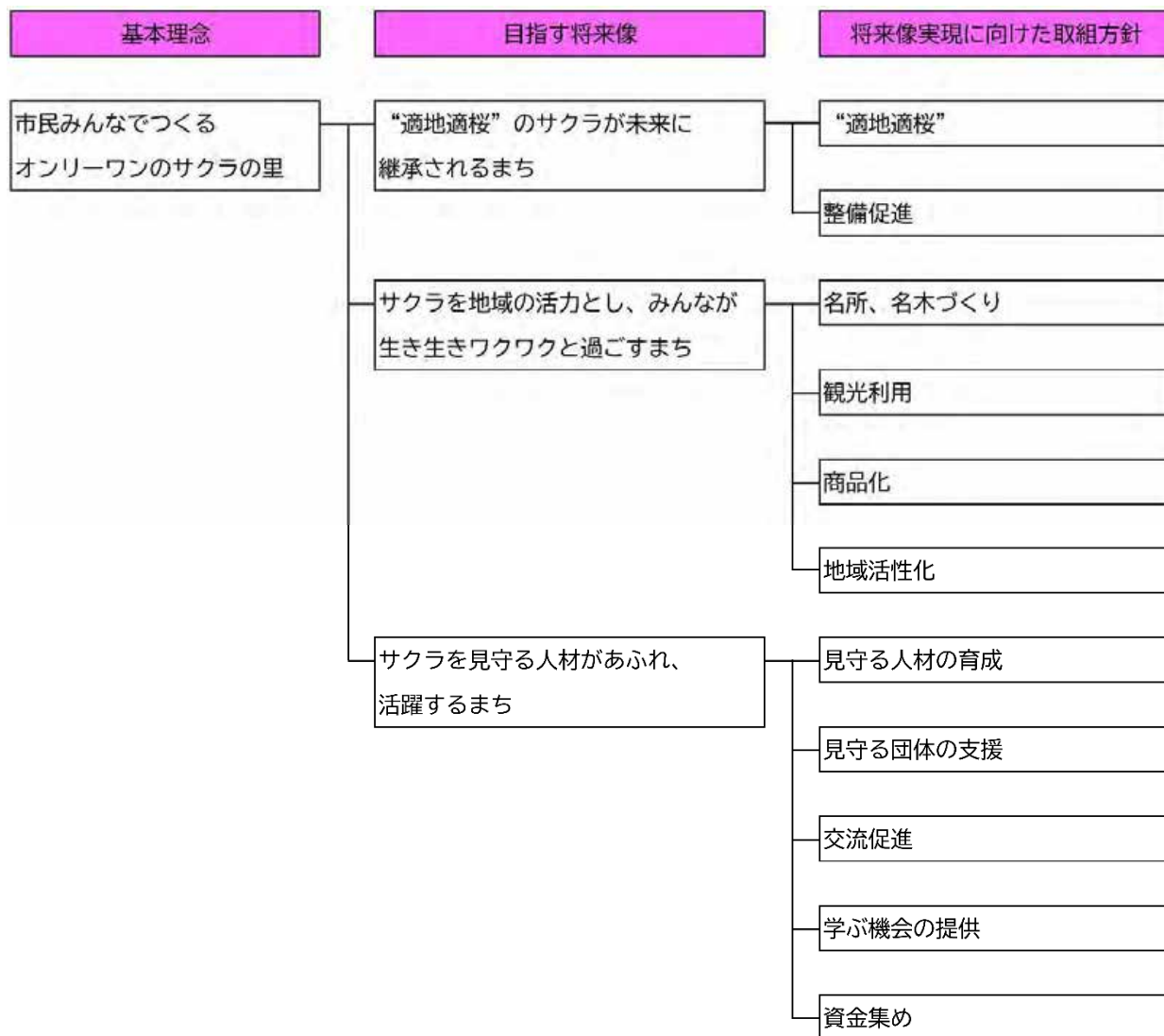


屋形船(イメージ)



サクラのキャラクター
桜みやこ

★体系図



第4章 モデル地区

本ビジョンでは、行政だけではなく、地域住民や各種団体が参画した活動により、桜を地域のシンボルとして適切に維持管理されている地域を、本ビジョンの理念や目指す将来像を率先して推進するモデル地区に指定し、広く周知していきます。

1 篠山城跡周辺

丹波篠山市の中心部にある篠山城跡の桜は、大正4年に大正天皇の即位を記念して植樹されたのが始まりです。後に、城郭一帯から城下の河原町、王地山公園と中心市街地の各所に約 3,000 本の桜が植えられ、丹波篠山が桜の名所として知られるきっかけとなりました。

篠山城跡周辺の桜は、市や商工会青年部、桜協会などにより剪定や植樹、消毒等の維持管理作業が行われています。



2 篠山川沿い

市内の河川沿いには、兵庫県の桜つつみ回廊事業などにより、多くの桜が植栽されています。中でも篠山川に架る渡瀬橋下流の河川沿いの桜は、桜協会や周辺自治会により、維持管理作業や地域に花見客を呼び込む取り組みがされています。また、多種類の桜が植樹されており、時間差で花開くことで、春の長い期間桜を楽しむ地域となっています。



第5章 推進体制と進捗管理

1 ビジョンの推進体制

本ビジョンが対象とするサクラは、公共施設や公園、河川・道路沿い、神社・仏閣など、公的な場所だけではなく、個人や事業者の所有地など、管理者や所有者が多岐にわたります。

本ビジョンでは、市木であるサクラをきっかけとしたまちづくりの基本理念や目指す将来像、戦略を定め、それらに基づく取り組みの例を紹介します。そして、それらの取り組みについて、行政に限らず、桜協会、その他の各種団体(自治会、観光協会など)、市民、事業者など、各主体(みんな)が自分事として積極的に実施されるよう推進していきます。

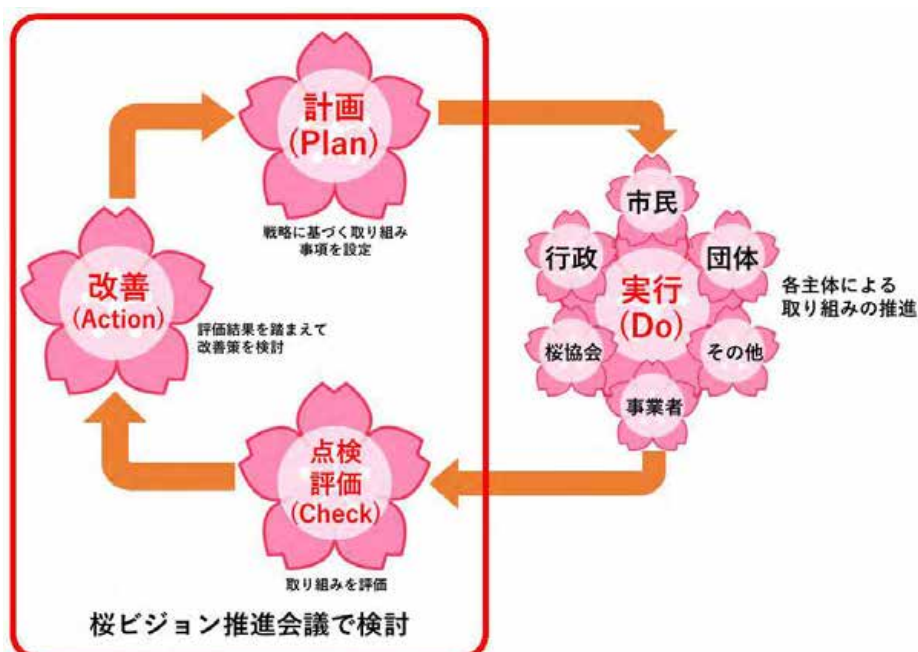
また、桜協会はサクラの保全活動を目的とした市内唯一の団体であり、本ビジョン推進の中核を担うことが期待されます。各主体(みんな)に桜協会への加入を呼びかけ、大きな組織により広範囲で効果的に活動できるよう推進していきます。

2 ビジョンの進捗管理

本ビジョンは、「PDCAサイクル」(Plan:計画、Do:実行、Check:点検・評価、Action:改善)により、進捗管理を行っていきます。

サイクルのうち「Do:実行」は、サクラに関わる各主体(みんな)が各々で、場合によっては協働し、実施します。「Plan:計画」「Check:点検・評価」「Action:改善」は、桜協会の理事や実際にサクラの整備に取り組む主体(みんな)の代表者などを構成員とする「桜ビジョン推進会議」で、毎年度検討します。

また、「桜ビジョン推進会議」で検討され、改善された取り組み(Plan:計画)は、積極的に広報し、より多くの主体(みんな)がサクラのために、できることから取り組んでいけるよう推進していきます。



推進体制と進捗管理のイメージ

資料

【資料①】桜ビジョン検討委員会 委員

任期:令和5年12月11日～令和7年3月31日

No	職名等	氏名	備考
1	ささやま桜協会 理事長	酒井 克典	委員長
2	ささやま桜協会 理事	森 正樹	
3	ささやま桜協会 桜守	吉良 勉	
4	丹波篠山市自治会長会 会長	山田 俊朗	
5	丹波篠山市造園組合(樹木医) 前組合長	小山 雅充	副委員長
6	丹波篠山市商工会 青年部 部長	上田 康雅	(令和6年3月31日まで)
		西村 好太	(令和6年4月1日から)
7	丹波篠山市商工会 女性部 副部長	雪岡 のり子	
8	丹波篠山市観光協会 理事	松浦 由美	
9	丹波篠山市国際博実行委員会 副実行委員長	畑 弘恵	
10	一社)アグリステーション丹波ささやま 代表理事	西尾 雅子	
11	公募市民	山本 幸雄	
12	丹波篠山市地域おこし協力隊	松本 修	(令和6年6月28日から)
13	丹波篠山市地域おこし協力隊	濱口 杏梨	(令和6年6月28日から)

【資料②】桜ビジョン検討委員会での検討の経緯

年 月 日		会 議 等	主 な 内 容
令和 5 年	12月11日	①検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状の交付 ・桜ビジョン検討委員会について ・市内の桜の管理状況についての報告 ・桜ビジョンの策定に向けた検討
令和 6 年	1月31日	②検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・現場確認
	2月15日	③検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回検討委員会(現場確認)の振り返り ・桜ビジョンの策定に向けた検討 全体構成(骨子案)の確認 課題の検討 基本構想の検討 など
	5月13日	④検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回検討委員会の振り返り ・桜ビジョンの策定に向けた検討 検討する範囲の確認 基本理念、目指す将来像の検討
	6月28日	⑤検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・桜ビジョンの策定に向けた検討(ワークショップ) 基本理念、目指す将来像の周知方法 取組の内容 など
	9月27日	⑥検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・桜ビジョン案の確認 ・桜ビジョンの策定に向けた検討(ワークショップ) 計画期間 重点地区・モデル地区の選定 財源 所有者明確化の方策 自分事として関わってもらうための方策 など
	12月18日	⑦検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・桜ビジョン案の確認 など
令 7 和 年	1月16日	市長へ報告	<ul style="list-style-type: none"> ・桜ビジョン案の市長報告



第1回検討委員会



検討委員による現場確認



ワークショップ

附 録

【附録①】 サクラの植え方

参考文献:丹南桜巡り(ささやま桜協会・平成12年)

A:植え場所の選定

樹木は一度植え込むと移植は大変です。慎重に植え場所を選定してください。

<サクラが好む環境>

- ①日当たりがよい事 → サクラは陽樹なので第一条件。
- ②水はけのよい肥沃な土壌 → 乾燥地もダメ。適湿がよい。
- ③風通しがよい場所 → 悪いと病虫害が出やすい。

以上の三点が満たされていれば植え付ける場所として合格です。ただし、②はある程度人工的に改良できます。樹木は成長して大きくなります。十二分に空間をとって植えてください。さらに背景に常緑樹があれば花が引き立ち、植え場所としては満点です。

B:品種の選択

一口にサクラといっても300種以上あります。背の高くなるもの、低いもの、枝垂れる品種、花も一重、半八重、八重咲、花色も白から緋紅色まで。開花期も早春から晩春、中には秋や冬に咲く品種まであります。そんな中から丈夫で育てやすく、美しいお勧めの品種を、植え場所の条件別に紹介します。

<山野などあまり条件のよくない場所に適した品種>

なるべく丈夫で樹勢が強く、あまり手入れの必要でない野生種が向きます。

… ヤマザクラ・エドヒガン・カスミザクラ・オオシマザクラなど

<手入れのできる広い場所に適した品種>

ほとんどの品種が栽培可能です。

・一重

… 染井吉野・嵐山・陽光(濃紅大輪)・兼六園熊谷など

・八重咲

… 松月・普賢象・白妙・一葉・関山・八重紅大島・福祿寿・楊貴妃など

・珍しい花色

… ウコン(淡黄緑)・ギョイコウ(緑と黄)八重寒緋桜(緋紅色)など

・珍しい花型

… 兼六園菊桜(万重咲)・普賢象・一葉(葉化したメシベ)・妹背・大村桜(二段咲き)など

・有香品種

… 千里香・御車返し・駿河台匂・上匂など

・早咲き

… 江戸彼岸・小彼岸・寒桜・寒緋桜・オカメ桜など

・秋～冬咲き

- … 十月桜・冬桜・子福桜など
- ・実も楽しめる品種
 - … シナミザクラ(暖地サクランボ)・赤実大島・ウワミザクラ(別亜種)など
- ・枝垂れる種類
 - … 八重紅枝垂(エドヒガン系)・枝垂山桜・八重紅枝垂・富士枝垂・雨情枝垂など

<一般家庭(狭い場所)に適した品種>

- ・小型種
 - … 豆桜(富士桜)系各種・近畿豆桜・高砂(八重)・熊谷桜(八重)・松月(八重)・小彼岸桜・八重紅小彼岸桜・十月桜など
- ・枝が横に張らない品種
 - … 天ノ川・海猫・泰山府君・御車返しなど
- ・小型枝垂タイプ
 - … 富士枝垂・枝垂山桜など

<鉢植え・盆栽に適した品種>

- ・八重
 - … 高砂・旭山・熊谷桜・十月桜など
- ・一重
 - … 豆桜・近畿豆桜・小彼岸桜・冬桜・若木ノ桜など

C: 植え方

① 植え穴を掘る

一年生苗木なら直径50センチ、深さ50センチ以上の穴、中苗なら根張りよりひとまわり大きな穴を掘ります。排水が悪い場合はさらに深く掘り下げ、パーライトなどの土壌改良材を混ぜます。

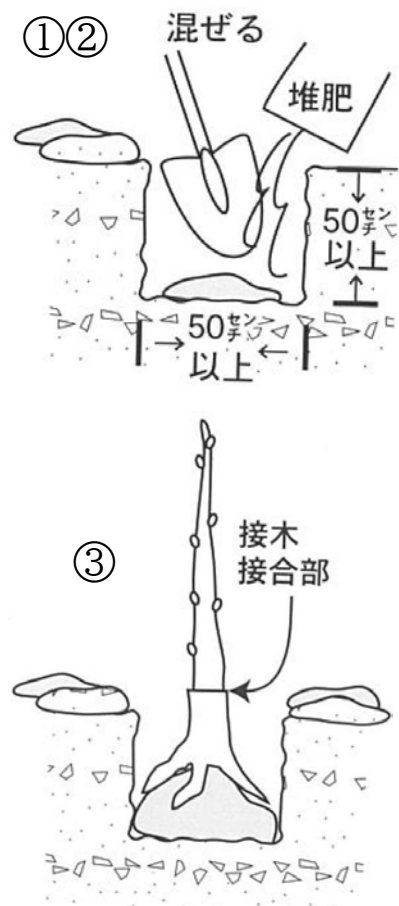
② 堆肥を混ぜる

元肥としてよりも、土壌改良材として完熟堆肥、腐葉土、バーク堆肥など、有機質の腐植材をたっぷり混ぜます。やせ地には特に大切です。

③ 苗木をすえる

実生苗は浅めに、接木苗は図のように接ぎ木接合部分が埋まるようにやや深植えにします。これは穂木の本体から自根を出しやすくするためです。いつまでも台木の根だけでは生育が悪い事があります。ただし極端な深植えは避け、なるべく土を盛り上げるように植えます。

※台木から出た「ひこばえ」はすぐに切り除きます。

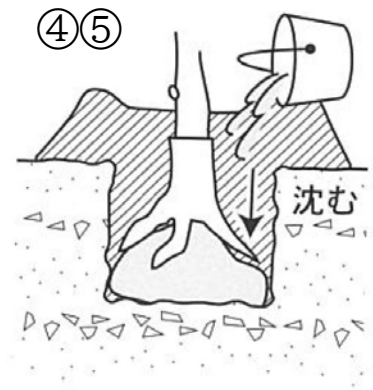


④土をもどして水鉢をつくる

水をやっても流れないように大きめに水鉢をつくります。

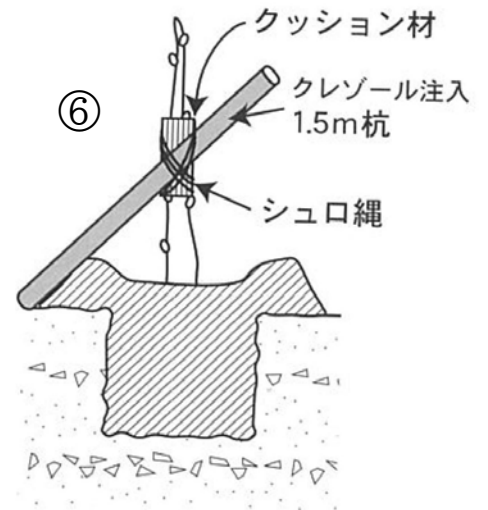
⑤たっぷりと水をやる

一年生苗木でバケツ3杯は水をやります。水が引くと土が沈み、根と土がよくなじみます。



⑥支柱を立てて苗木を縛る

一年生苗木でも支柱は必要です。長さ150センチ位の防腐剤注入の支柱を斜めに打ち込み、シュロ縄で縛ります。縄がくい込まないように、苗木にスギ皮などのクッション材を巻きます。四、五年生以上の苗であれば、しっかりした鳥居形支柱が必要です。シュロ縄はくい込む前に外すか、縛り直します。



←植樹時に適切に支柱が設置されたもの



←サクラの成長後も支柱がそのまま放置され、くい込んでしまったもの

【附録②】 サクラの剪定

参考文献: 丹南桜巡り(ささやま桜協会・平成12年)

「桜切るバカ」について

諺(ことわざ)に「桜切るバカ梅切らぬバカ」というものがありますが、これはサクラと梅の性質を端的に表わす実にうまいことわざです。これは、梅は切り込みに強く、適度に切ることで木が若返り元気になる。ところがサクラは下手に切ると切り口から病菌や害虫が入りやすく、木を弱らせるので、あまり切らない方がよい。といった意味なのです。確かにサクラは深切りして傷口が大きくなると、そこから木質部分が腐りやすく、傷口からコスカシバなどの害虫が入りやすいものです。しかし、それもやり方次第です。あまりにこのことわざにとらわれて剪定をしないと、形も乱れ、かえって病虫害の誘因にもなるのです。また、サクラにとっての生活空間が狭い場所において、人間生活と共存するためには剪定は不可欠な作業です。つまり、基本は「桜切るバカ」ですがそれもケースバイケースだということです。

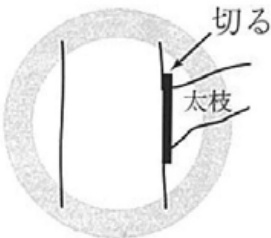
サクラを適切に維持管理していくため、剪定する場合には、下記のこと留意して実施してください。

<その①> 若い枝や若木の内に積極的に剪定し、目的の樹形に整える

剪定に強くないサクラも、一、二年枝ならばまず大丈夫です。不要な枝は早めに切り除いてください。怖がって切らないでないと枝が太り、後々人間もサクラもつらい思いをします。

<その②> 太枝を切る時は枝分かれか付け根からスパッと思い切りよく

なるべく太枝を切るのは避けたいですが、やむをえない場合は下図のように、枝分かれの部分か枝の付け根で切ると、傷口の肉巻きがよく腐れ込みが少ないようです。枝を切り残すと傷口の肉巻きが悪く、そこから木質部が腐れ込みやすいのです。



←根元から適切に切断された枝

途中で無造作に→
切断された枝



<その③> 大きな傷口には必ず薬をぬること

大きな傷口からは水分が逃げやすく、腐朽菌も侵入しやすいものです。必ず癒合促進剤（カルスメイトなど）や接ぎロウの類を塗布してください。なければ木工ボンドやペンキ、墨でもかまいません。殺虫殺菌剤を散布してからこれらを塗れば完璧ですが、要は傷口をコーティングして病虫の侵入を防ぐ事です。サクラの剪定では最も重要な作業ですので、くれぐれも忘れないようにしてください。



コーティングされた切り口

<その④> 剪定の適期は落葉期

落葉していると樹形や枝が見えやすく、作業がはかどります。それにサクラ自体も休眠しており、負担も軽く、その後の回復も早いようです。ただし、てんぐ巣病の枝は、時期にかまわず見つけ次第すぐに切除してください。



落葉期のサクラ



てんぐ巣病の枝



丹波篠山の桜をイメージした絵画

(丹波篠山市桜ビジョン検討委員会委員・西尾雅子さんの作品)

丹波篠山市桜ビジョン

— 市民みんなでつくるオンリーワンのサクラの里 —

令和7年3月発行

編集 丹波篠山市観光交流部商工観光課

〒669-2397 丹波篠山市北新町 41

電話:079-552-1111(代表)

メール:kanko_div@city.sasayama.hyogo.jp
